Money & Investment

NISA選びは投信選び

少額投資非課税制度（日本版ISA＝NISA）の口座開設手続きが始まった。証券会社、銀行などがNISA口座で提供する商品やサービスも固まりつつある。特に大手ではこれから資産を形成する世代にとって有力候補となる投資信託の積み立てサービスがほぼ出そろった。口座選びのポイントを比較してみた。

「NISAを活用するつもりだが、どこで口座を開くか決められない」。埼玉県の女性会社員、A子さん（35）は悩む。金融機関のホームページ（HP）に掲載されているキャンペーンを見ても「何を決め手にすればいいか分からない」という。

ファイナンシャルプランナー（FP）の山崎俊輔氏は「投資に慣れていない人は投信の積み立てが有力な投資先」と話す。初心者は一般的に元手が少なく、最適な投資先とタイミングを判断するのが難しい場合が多い。投信の長期積み立ては値下がり時も買い逃さず、資産の分散効果でリスクを抑えることが期待できる。

FPの竹川美奈子氏も「投資の入り口には投信積み立てを勧める」と強調。NISA口座選びのポイントとして①商品の種類・数②最低積立金額③利便性――を挙げる。

上手にリスク分散

まずNISA口座で積み立て可能な投信は現在どれくらいあるのか。野村など大手証券は約215～350本あまり用意。大手銀行は102～144本を扱う。大手ネット証券は購入時の手数料がかからない「ノーロード投信」で顧客獲得を目指す姿勢が鮮明で、楽天証券は約350本、マネックスは約600本を扱う。

投資家としては選択に悩むところだが、竹川氏は「ある程度リスクを取れるなら日本、先進国、新興国のインデックス投信3本を基本に選んではどうか」と助言する。地域の分散効果が期待でき、インデックス投信は一般的に値動きも安定しているからだ。

次に最低積立金額をチェックしてみよう。額が小さいほど気軽に始められるほか、限られた元手を振り分けるのに役立つ面があるためだ。最も低いのがカブドットコム証券とSBI証券の月500円で、楽天証券と大和証券などの1000円が続く。

盲点になりやすいのが毎月の積立金の自動引き落とし。独立系FP法人ガイアの中桐啓貴社長は「定期的に入金される給与口座などから引き落としができるか確認した方がいい」と指摘する。

例えばSBI証券は地銀や信用金庫を含め284行の口座から引き落とせるが、ゆうちょ銀行は対象外。カブドットコム証券は積立日を自由に設定できるものの、金融機関は7行と限られる。

投資信託を月2万～3万円ずつ積み立てる場合、年間の非課税枠100万円は60万円あまり残る。その場合はNISA口座で上場株式を運用し、値上がり益を狙うのも一案だろう。野村総合研究所が個人5000人を対象に実施した調査で、NISAで関心のある金融商品を聞いたところ「上場株式のみ」との回答は3割弱を占めた。

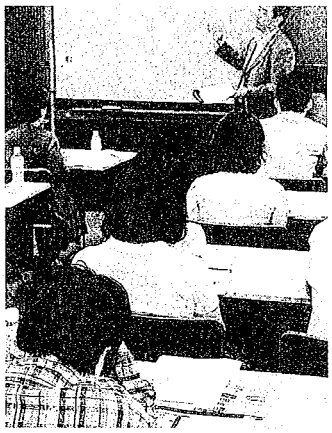
単元未満株も手軽

上場株式の取引でNISA口座を選ぶ際に注目したいのは手数料だ。ネット証券各社はマネックス証券をのぞき、キャンペーン手数料を設定。楽天証券とSBI証券が売買手数料を2014年の1年間、松井証券はNISA制度が続く限り無料にする。カブドットコム証券は買い付け手数料を18年まで無料にする方向だ。

少額で取引できる単元未満株に着目するのもいいかもしれない。個別株は100株、1000株などの売買単位が決まっており、主力株を買うにはまとまった金額が必要なことが多い。単元未満株は1株単位で投資でき、NISA口座で扱うところもある。例えば1万円から取引できるSMBC日興証券の「キンカブ」。通常の課税口座は200万円未満の取引で2％の購入コストがかかるが、NISA口座ではゼロだ。

上場投資信託（ETF）も見逃せない。手数料引き下げ競争が波及しているからだ。松井証券とカブドットコム証券は国内ETFの購入手数料が無料だ。SBI証券と楽天証券は海外ETFの買い付け手数料を無料とした。「自動積み立てはできないが、自分で定期的に買う手間が掛けられるなら検討対象だ」（中桐氏）。NISAはいったん口座を決めると最低4年間は変更できない。手数料や利便性など総合的に自分にあった口座を選ぶことが大切だろう。

（下前俊輔）



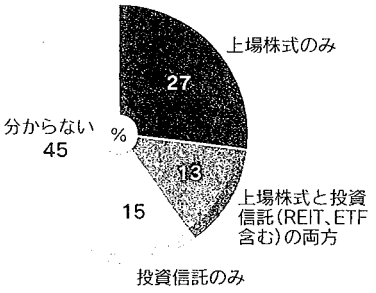
NISA口座選びは今からでも間に合う（セゾン投信のNISAセミナー）

主な金融機関のNISA口座サービス

	投信の積み立て取扱本数（うちノーロード投信）	最低積立金額（円）	積立金の自動引き落とし	株式・ETF手数料
野村	約250本（約70本、ネット・電話取引限定）	5000円	大半の銀行、信金に対応	最大で約定代金の1.365％など※1
大和	215本程度（未定）	1000円	大半の銀行、信金に対応※2	最大で約定代金の1.2075％など※1
SMBC日興	350本以上（350本以上）	1万円	67行	最大で約定代金の1.2075％など※1
SBI	1300本程度（360本程度）	500円	284行（ゆうちょ銀は対象外）	14年は株式手数料と海外ETF買い付け手数料無料
楽天	1375本程度（350本程度）	1000円	200行。楽天カードで引き落としも	14年は株式手数料と海外ETF買い付け手数料無料
マネックス	600本程度（600本程度）	1万円※3	未定	株式は約定代金10万円以下で105円など※1。14年は米ETF買い付け手数料無料
カブドットコム	380本程度（200本程度）	500円	対応は7行。積立日は自由に設定	18年まで買い付け手数料が無料の方向
三菱東京UFJ銀	144本（12本）	1万円（1000円※4）	自行口座のみ	扱いなし
三井住友銀	102本（15本）	1万円（1000円※5）	自行口座のみ	扱いなし
みずほ銀	144本（27本）	1万円	自行口座のみ	扱いなし

（注）3日現在。※1）課税口座と同じ。2）大和ネクスト銀に口座がある場合。3）1000円への引き下げを検討中。4）残高報告書などをネットで確認する「Eco通知」の場合。※5）ネット取引の場合

NISAで関心のある金融商品は？



（注）野村総研調べ